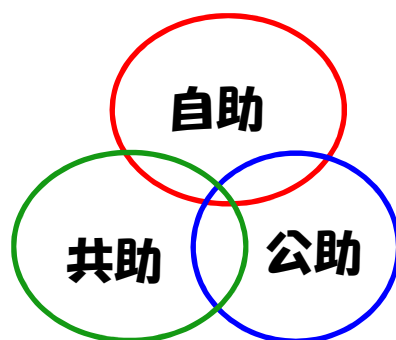


安城市校区別地震防災カルテ

学区：桜井小学校区



自分たちが住んでいる地区の状況や被害想定、防災施設を把握し、地震に強いまちづくりを進めていきましょう。

安城市

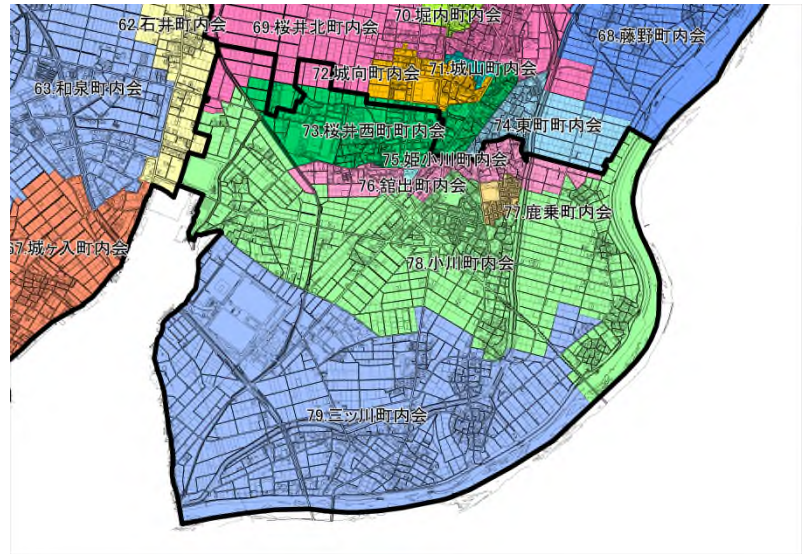
目 次

桜井小学校区のむかしと今	1
1. 校区の位置図	2
2. 校区の構成	2
3. 校区の概要	2
4. 被害予測の結果（過去地震最大モデル）	4
5. 被害予測の結果（理論上最大想定モデル）	6
6. 防災関連施設	8
7. 避難所等一覧.....	9
8. 防災上の課題	10
9. 防災関連施設分布図	11

1. 校区の位置図



校区面積約 11.22km²
(安城市全体の 13.0%)



町内会区分図

2. 校区の構成

藤井町、木戸町、寺領町、野寺町、小川町、姫小川町、桜井町〔稲荷西・稲荷東・小三尻・雨池下・伝佐・五ヶ野・塔見塚・咽首・蜂ヶ尻・林・半抜・新田〕

3. 校区の概要

【位置】 桜井小学校区は、市の南部に位置する。

校区の北東部の一部が岡崎市との市境となっており、大半は西尾市との市境となっている。

【土地】 西尾市との市境には矢作川が流れており、校区内には鹿乗川や朝鮮川が流れている。
標高は比較的高く平地が広がっている。

【土地利用】 住宅は主に鹿乗川以西に広がっており、その他は田畑が広がっている。
広い工業用地も点在する。

【交通】 南西部には国道 23 号（知立バイパス）が縦断している。また、南西方向に県道岡崎西尾線（44 号線）、南北に県道西尾小川線（294 号線）が通っており、県道幸田石井線（292 号線）と交差している。

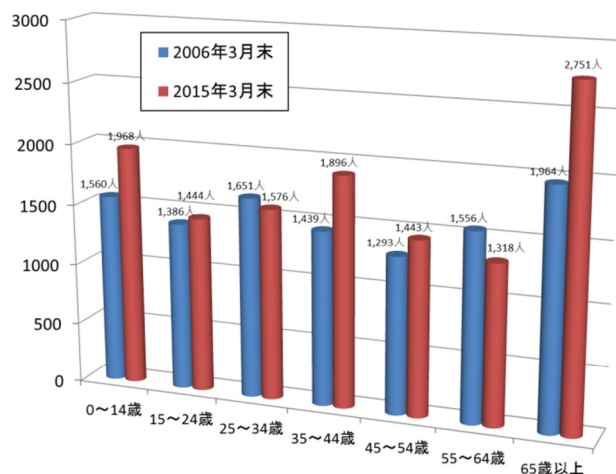
桜井小学校区内に名鉄南桜井駅、桜林小学校区との境界には名鉄桜井駅がある。

【その他】 町内会は、三ツ川町内会、小川町内会、鹿乗町内会、館出町内会、姫小川町内会、桜井西町町内会、桜井北町内会

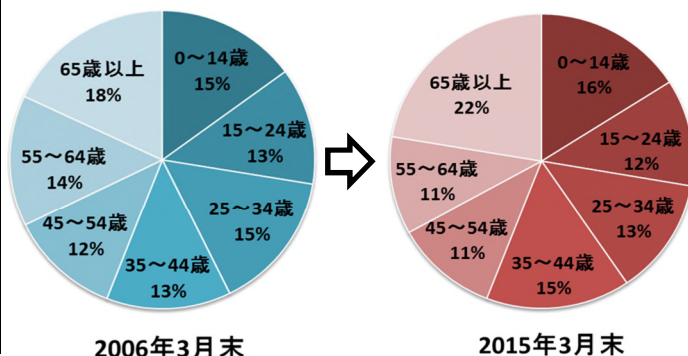
【人口等】（2006 年 3 月末時と 2015 年 3 月末時の比較）

人口は増加している。ただし、65 歳以上の高齢人口比率も増えている。

2006年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	1,560人	15%
15～24歳	1,386人	13%
25～34歳	1,651人	15%
35～44歳	1,439人	13%
45～54歳	1,293人	12%
55～64歳	1,556人	14%
65歳以上	1,964人	18%
人口(合計)	10,849人	100%
人口密度	967人/km ² (全市 2,013人/km ²)	
世帯数	3,268世帯 (対全市 5.4%)	

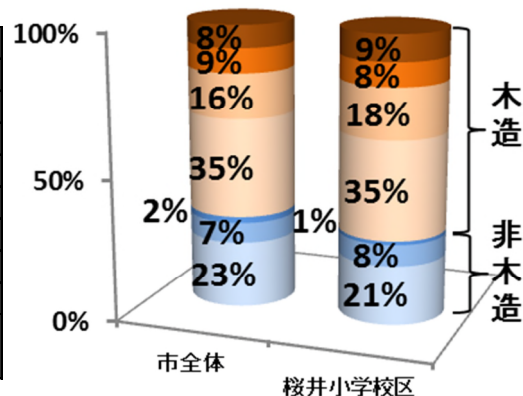


2015年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	1,968人	16%
15～24歳	1,444人	12%
25～34歳	1,576人	13%
35～44歳	1,896人	15%
45～54歳	1,443人	11%
55～64歳	1,318人	11%
65歳以上	2,751人	22%
人口(合計)	12,396人	100%
人口密度	1,105人/km ² (全市 2,151人/km ²)	
世帯数	4,260世帯 (対全市 6.1%)	



【建物棟数】（2011 年 12 月）

	建物棟数(2011年12月)	校区内での比率
木造	昭和36年以前	439棟 9%
	昭和37～46年	399棟 8%
	昭和47～56年	829棟 18%
	昭和57年以後	1,653棟 35%
非木造	昭和46年以前	61棟 1%
	昭和47～56年	361棟 8%
	昭和57年以後	1,004棟 21%
建物棟数(合計)		4,746棟 100%
1km ² 当たりの建物棟数 (校区／全市)		校区: 423 / 全市: 699(棟/km ²)



4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

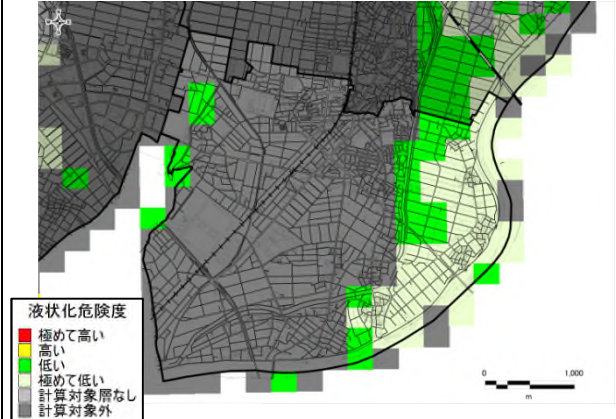
過去地震最大モデルとは：

- ・南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで大きいもの(1707年「宝永地震」(M8.6)、1854年「安政東海地震」(M8.4)、1854年「安政南海地震」(M8.4)、1944年「昭和東南海地震」(M7.9)、1946年「昭和南海地震」(M8.0))を重ね合わせたモデル。
- ・本市の地震対策を検討する上で重要な想定とした。

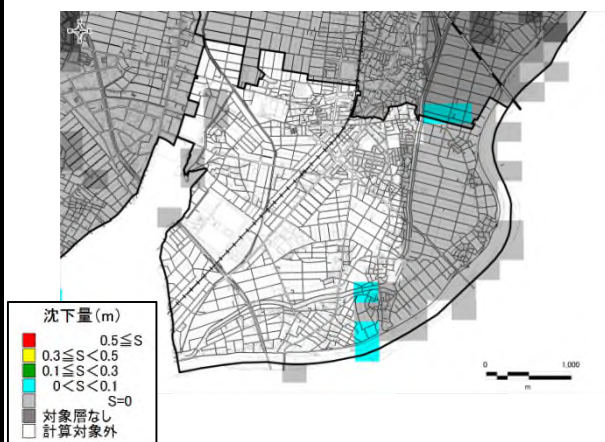
① 想定される地震動の強さ (250m メッシュ)



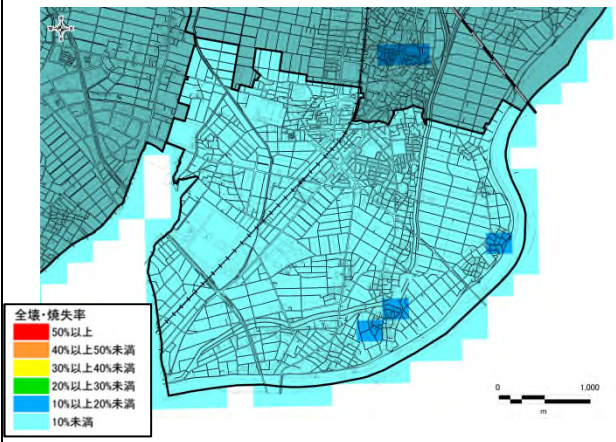
② 液状化の危険性 (250m メッシュ)



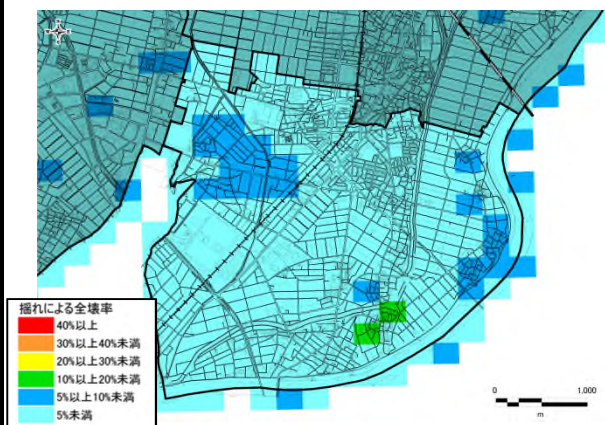
③ 地盤沈下量 (250m メッシュ)



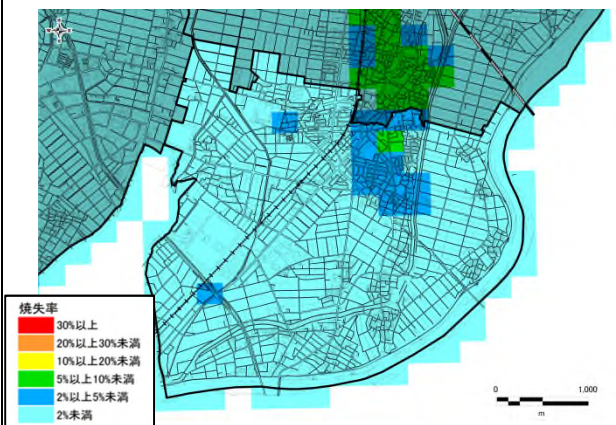
④ 全壊焼失率 (250m メッシュ)



⑤ 揺れ全壊率 (250m メッシュ)



⑥ 焼失率 (250m メッシュ)



4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

桜井小学校区は、震度 6 弱から一部で震度 6 強の揺れが想定されている。深度 6 弱は立っていることが困難になるほどの揺れであり、震度 6 強になるとはわないと動くことができない揺れである。建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。液状化に関しては、区域東部の矢作川沿いの低平地で液状化する危険が考えられる。また、本校区は火災によって焼失する建物も比較的多い。家を離れて避難する際にはブレーカーを切るなどにより、出火を防止することが必要である。

<建物・人的被害の予測>

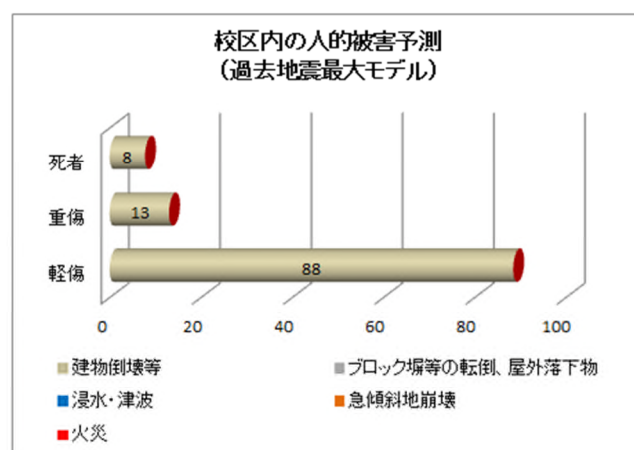
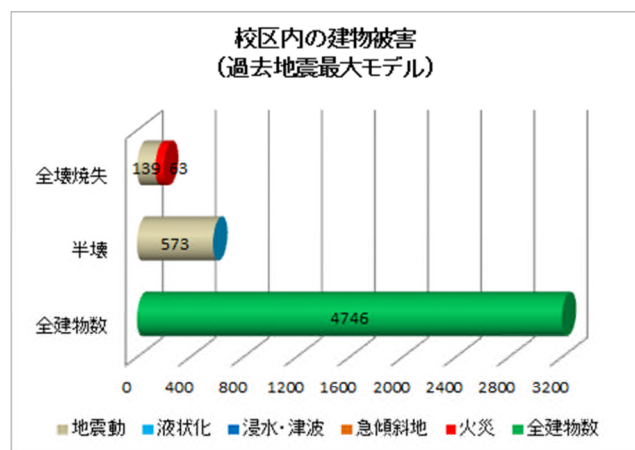
単位: (棟)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数4,746棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	139	573
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	63	—
建物被害総数	202 (4.2%)	573 (12.1%)

単位: (人)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口11,307人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等	8	13	88
(うち屋内転倒物・屋内落下物)	(1)	(3)	(14)
ブロック塀等の転倒、屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	*	*	*
被害者数合計	8 (0.07%)	13 (0.12%)	89 (0.78%)

* : わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

<ライフライン被害の予測>

ライフライン	被害	95%復旧するのに
上水道	被災直後、約9割が断水	約6週間
下水道	被災1日後、約7割が利用困難	約3週間
電力	被災直後、約9割が停電	約1週間
通信【固定電話】	被災直後、約9割が通話支障	約1週間
通信【携帯電話】	被災1日後、基地局の電波が停止する確率が、最大約8割	約1週間(基地局の復旧)
都市ガス	被災直後、0.3割が供給停止	約2週間
LPガス	被災直後、約1割が機能支障	約1週間

<避難者数の予測>

	1日後			1週間後			1ヶ月後		
	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外
桜井小学校区	683	410	273	1,839	919	920	683	205	478
市計	8,271	4,976	3,295	26,649	13,359	13,289	8,142	2,442	5,699

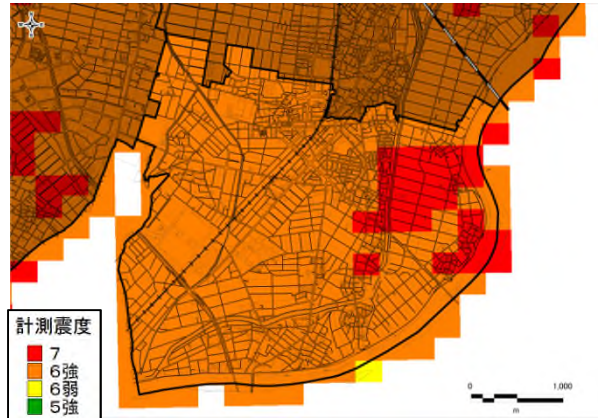
※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

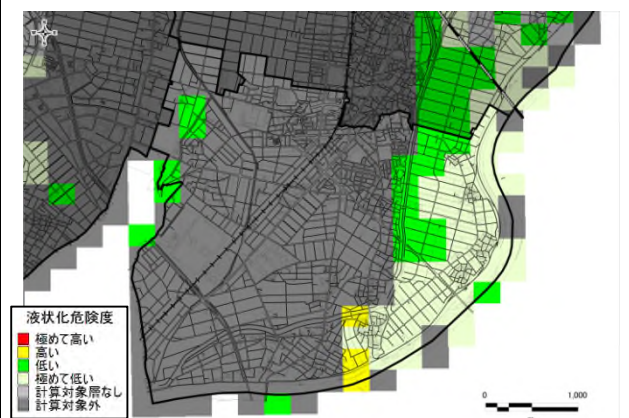
理論上最大想定モデルとは：

- ・南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、千年に一度、あるいはそれよりもっと発生頻度が低い地震。発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震。
- ・「命を守る」という観点で想定外をなくすことを念頭に地震対策を講じることが不可欠であることから、あらゆる可能性を考慮して想定した最大クラスの地震・津波モデルとして設定。

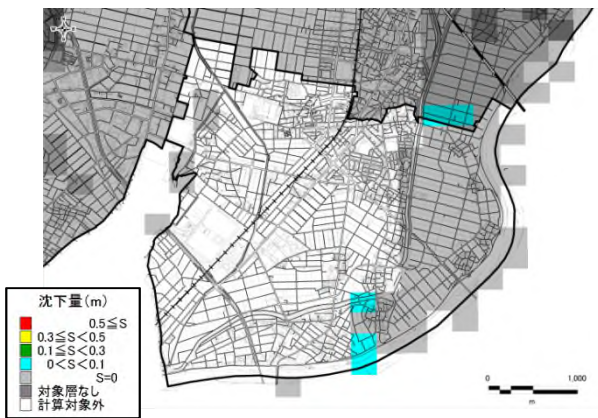
① 想定される地震動の強さ (250m メッシュ)



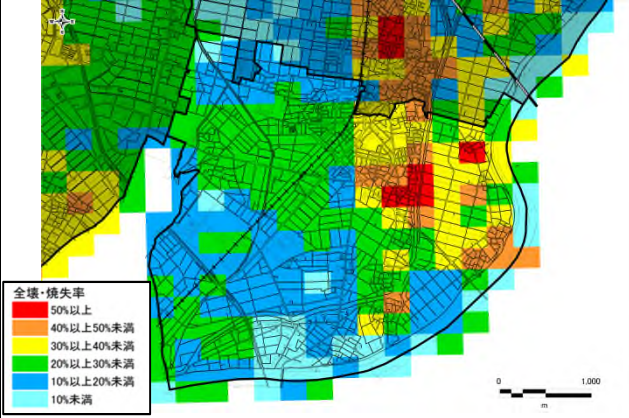
② 液状化の危険性 (250m メッシュ)



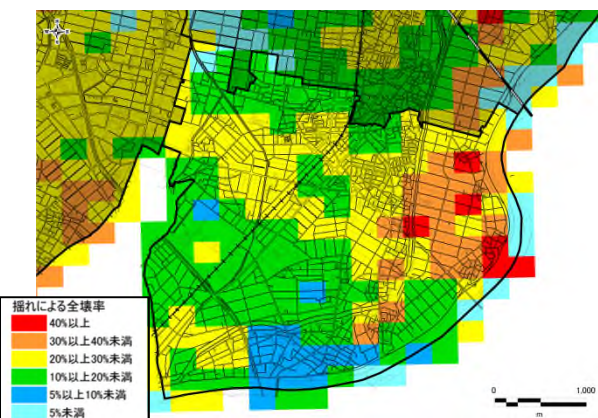
③ 地盤沈下量 (250m メッシュ)



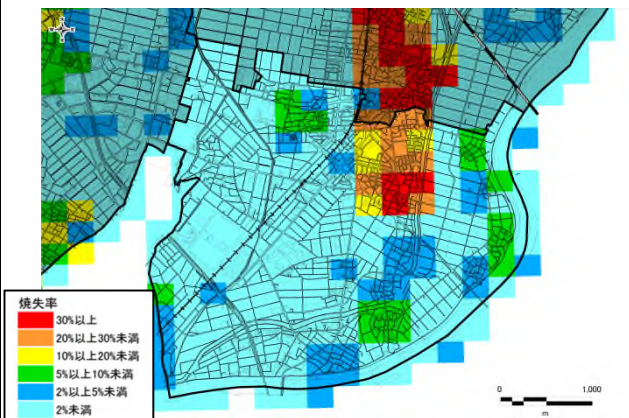
④ 全壊焼失率 (250m メッシュ)



⑤ 揺れ全壊率 (250m メッシュ)



⑥ 焼失率 (250m メッシュ)



5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

桜井小学校区は、震度 6 強から一部では震度 7 の揺れが想定されている。はわないと動くことができないほどの非常に強い揺れであり、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。

液状化に関しては、区域東部の矢作川沿いの低平地で液状化危険度が高くなっている。

また、本校区は火災によって焼失する建物が多く、人的被害が発生する可能性もある。家を離れて避難する際にはブレーカーを切るなどにより、出火を防止することが必要である。

<建物・人的被害の予測>

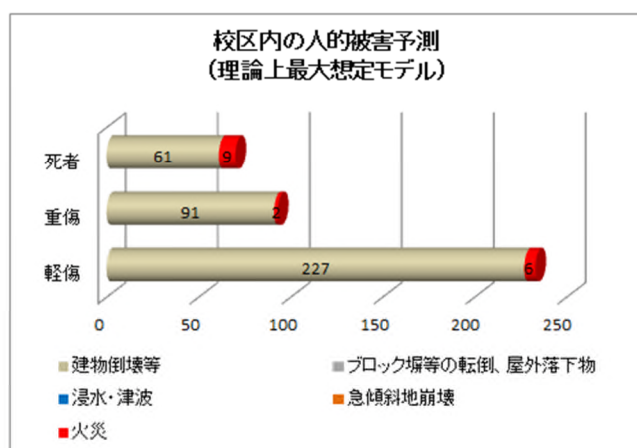
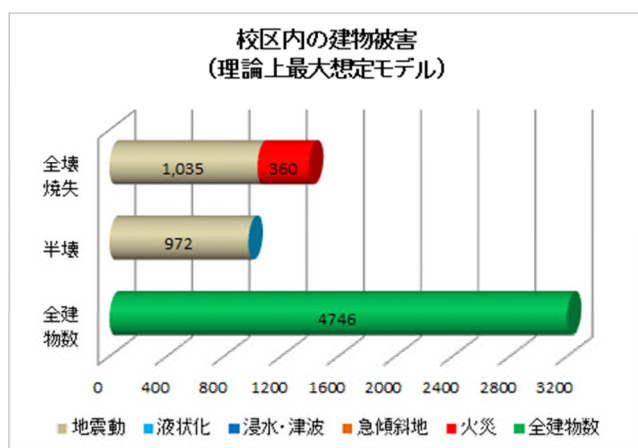
単位: (棟)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数4,746棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	1,035	972
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	360	—
建物被害総数	1,395 (29.4%)	972 (20.5%)

単位: (人)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口11,307人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等	61	91	227
(うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	(4)	(18)	(63)
ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	9	2	6
被害者数合計	70 (0.62%)	93 (0.83%)	233 (2.06%)

* : わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

6. 防災関連施設

防災関連施設	名称
警察署	—
緊急時ヘリポート可能箇所	愛知県立安城特別支援学校グラウンド
消防署	—
消防団	小川分団詰所、三ツ川分団詰所
拠点病院・救急病院・災害医療救護所※	桜井中学校
自主防災組織	7
防災倉庫・防災資材庫	桜井小学校、桜井中学校、三ツ川保育園、桜井福祉センター
応急給水施設	桜井小学校、桜井中学校、桜井福祉センター
井戸	11
マンホールトイレ	桜井小学校、桜井中学校
学校	桜井小学校、桜井中学校 愛知県立安城特別支援学校
保育園	三ツ川保育園、小川保育園、さくら保育園
幼稚園	—
公民館・福祉センター	桜井福祉センター

※大規模災害時にのみ開設される救護所

7. 避難所等一覧

避難所	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	避難所	桜井小学校	99-2201	小川町清水道 6-1	390
		桜井中学校	99-0028	小川町の場丘 1-1	740
		三ツ川保育園	99-1767	寺領町願明 85	60
臨時避難所	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	臨時※	アイシン・エイ・ダブリュ株式会社	73-1111	藤井町高根 10	—
福祉避難所等	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	福祉	桜井福祉センター	99-7365	桜井町新田 20	130
	特定福祉※	特別養護老人ホーム 小川の里	73-7011	小川町三ツ塚 1-1	—
		ハルナ	99-9860	桜井町咽首 195	—
		ラニハルナ	99-9770	桜井町咽首 197	—
		愛知県立安城特別支援学校	99-3345	桜井町伝左 20	—
避難場所等	区分	名称		所在地	面積[㎡]
	一時	的場公園		小川町の場丘 8	2,600
		本城公園		小川町の場丘 13	3,100
		鹿乗公園		姫小川町鹿乗 1-48	1,500
		藤井公園		藤井町東山 106-1	7,700
		きどはし公園		木戸町西屋敷 38-6	2,400
		木戸東公園		木戸町丸池 195	10,000
		桜井中央公園		小川町堂開道 1-1	22,300
		姫西せせらぎ公園		姫小川町遠見塚 132-1	2,500
		とうみづか公園		桜井町塔見塚 39	2,500
		桜井小学校		小川町清水道 6-1	8,500
		桜井中学校		小川町の場丘 1-1	9,800
		三ツ川保育園		寺領町願明 85	680
		桜井福祉センター		桜井町新田 20	2,100
		小川保育園		小川町志茂 188	2,500
		さくら保育園		桜井町新田 20-1	2,100
		桜井駅前公園		桜井町新田 19-18	8,000
		桜井南公園		小川町御林 1-1	11,000
		金政公園		小川町金政 119-2	1,700

※市の依頼に基づき開設される臨時的な避難所

8. 防災上の課題

- ・昭和 56 年以前に建築された木造住宅が多い地区となっており、被害想定では、全壊・焼失、半壊となる建物の割合は、過去地震最大モデルで約 16%、理論上最大想定モデルで約 50%となっている。また、人的被害においても、建物倒壊等による死者数、重傷者数が、過去地震最大モデルで 21 人、理論上最大想定モデルで 152 人となっている。建物被害や人的被害を減少させるためには、昭和 56 年以前に建築された建物の耐震診断や耐震改修により建物の耐震化を進める必要がある。
- ・木造住宅の割合が多く、火災による人的被害では理論上最大想定モデルで死者数、重傷者数が 11 人となる想定が出ている。火災による人的被害を減らすためには、各家庭での消火器の準備や感震ブレーカーの設置などにより、火災を拡大させない対策が必要である。

9. 防災関連施設分布図



※最新の地形図とは異なる場合があります。

平成28年8月配布
安城市危機管理課